

■ アーバンスポーツとは

公園、広場など街なかを舞台に楽しまれるスポーツの総称。順位や記録だけでなく、音楽やファッションと融合した自己表現やカルチャー的側面が強いスポーツである。多様な種目があるが、スケートボードやBMX、ブレイキン（ブレイクダンス）、3x3などが代表的でオリンピック種目にも採用されている。

- 注目される背景**
- ・スケートボードやBMXがオリンピック追加種目になったことを契機に、若い世代を中心にアーバンスポーツに親しむ方が増加傾向
 - ・「音楽やアートイベントと共催が可能」「ストック活用」「街の活性化」など、まちづくりの課題解消に寄与する方策として、注目されている。

茅ヶ崎市のスポーツ推進の基本的な考え方（修正案）

基本方針4「スポーツの持つ力による活性化」で、自然や人々の営みにより形成したきた文化を生かし、本市の魅力向上をサーフィンなどマリンスポーツやアーバンスポーツ等を推進し、スポーツから地域の活性化を図るとしている。街を活性化する要素として、アーバンスポーツの強みを生かし取組を進めます。

取組の視点

- ・アーバンスポーツの文化的背景も踏まえ、人が集い・暮らす場所の近くで遊ぶことができ、既存のストック（公共・公共的空間）を活用。それにより、施設整備・維持に掛かる費用を縮減。
- ・アーバンスポーツを「する」人のみが楽しめる空間を創るのではなく、多様な活動が共存・共栄するユニバーサルな空間とする。
- ・茅ヶ崎市のみならず広域（藤沢市・寒川町）で、街なかの様々な場所でアーバンスポーツを「する」「みる」から楽しめる。

気軽に立ち寄り、誰もが楽しむ ふらっとパーク

Point ストック活用、ユニバーサル、広域連携

取組み1 ※調査委託を踏まえ、具体的な設計に着手

様々な活動が出来る ふらっとパーク（施設整備）

発祥の背景 発祥の背景を踏まえ、既存ストックを活用しつつ、誰もが来やすい市中心部にある総合体育館前庭を活用し、パークを整備

複数の競技が共有 スケートボード、BMX、3x3など複数の種目が共有し使える平場を整備。このため、持ち運び可能な物で空間を利用する



整備場所



整備イメージ

取組み2

イベント等に繰り出し、アーバンスポーツを披露・スクールを開催

街を舞台に 持ち運び可能な物（セクション）を学校や広場に設置し、子どもを対象にしたスクールやトリック（技）を披露する

既存のパークで 湘南アーバンスポーツフェスタなど初級スクールを開催。2市1町ゆかりの選手によるトリックも披露。



駐車場を使ったスケートボード体験会



学校でBMX/BMXエナジーアクション（松浪小）

取り組み1 様々な活動ができる ふらっとパーク（施設整備）

1

整備場所

公共用地や公共施設に整備することを基本として、複数の候補地から、アクセス性や交通安全性、周辺環境、事業実現性・効率性、“茅ヶ崎らしさ”の表現可能性等の観点から比較検討し、茅ヶ崎市総合体育館の前庭空間としました。



整備場所の選定経過

実施計画2025に基づき、アーバンスポーツの普及振興に適した設置場所の選定を有識者の意見を聴きながら進めてきました。

選定は、「コスト面」「アクセスのしやすさ」「利用者以外の人が行きかう場所か（目に触れやすさ）」「周辺環境」の視点から総合的に評価し、8つの候補地（柳島しおさい公園、中央公園、小出暫定スポーツ広場など）から、市のスポーツ拠点である総合体育館の前庭空間と整備場所として選定したものです。

2

整備の基本方針

様々な活動ができる ふらっとツパーク

FLATな「空間」

アクセスしやすい市中心部にあるユニバーサルな空間

- 子どもをはじめ誰もがアクセスしやすい市中心部にある総合体育館前庭に整備。
- 施設周囲の安全性を確保しながら、街なかを開けた設えとします。

FLATに「参加」

通学通勤、買い物、勉強の間にアーバンスポーツを楽しむ

- スケートボードなど、複数のアーバンスポーツを楽しめる環境を整備します。
- ふとした時間に立ち寄り、楽しめるような運営方向を検討します。

FLATな「関係」

多様な活動/人々が、時間や空間を共有

- スポーツのための空間のみならず、散歩など市民の憩いの場ともなるような空間づくりを行います。
- アーティストウォールを設けるなど、アートも楽しめる空間づくりを検討します。
- 防災機能を有する総合体育館での、有事の際の活動が有効に使える空間づくりを検討します。

3

パークの整備にあたって併せて検討する事項

整備に併せて、照明灯や舗装等、前庭空間全体で再整備が必要な箇所が併せて整備することを検討します。



既存の緑地や照明灯の再整備



樹木の根上りによる舗装の凸凹

4

施設計画

- 施設周囲の安全性を確保しながら、来街者とプレーヤーを近づける、オープンな雰囲気の施設とします。
- まちなかの施設として、周辺の建築やランドスケープの要素を取り入れたアーバン(都市的)なデザインとします。
- 未経験者と経験者が一緒になって楽しめる施設レベルとします。
- 施設の安全性を保ちつつ、居心地のよい空間となるように緑化計画とします。
- 日常的に利用される施設として、飽きない・魅力的な場所となるよう、スケートパークのセクション構成の工夫や、多様な活動を受け入れるレクリエーションスポーツエリアの配置などを検討します。
- 夜間の快適な利用や魅力的な景観形成のため、機能面とデザイン面を両立した照明計画を検討します。
- 整備後もイベント利用（キッチンカーや工作物の設置等）ができるよう、通路やフリースペースを十分に確保します。

ゾーニング図

イメージ



整備例 秋葉台公園スケートボードパーク

5

運営計画

- 日常利用がしやすい施設として、夜間も含めた利用が可能な施設とします
- 利用料金については、施設の設置目的や受益者負担の考え方を考慮し、今後検討します。また、利用者による自律的な利用ルール作成や施設環境維持の取組につながる運営を検討します
- 未経験者がアーバンスポーツに触れ、楽しめる機会を提供するため、地元団体や競技者等と連携してスクールやイベントの開催を検討します
- オープン後も利用者に愛され続けるための「しかけ」を検討します。

6

事業スケジュール

設計内容を精査し、早期に工事に着手を目指します。